

H.C.R.2024 に参加して

野田 笑美

花はたりハビリテーション病院

1. はじめに

2024 年 10 月 2 ～ 4 日の 3 日間にかけて、東京ビッグサイトにて H.C.R.2024 第 51 回国際福祉機器展 & フォーラムが開催されました。出展社数は 402 社、来場者数は 12 万人を超える盛況でした。国内外の福祉機器メーカーの展示をはじめ、多彩なセミナーなどの企画も催されました。そのうちの一つであるグローバルセミナーで講師を務められた International Society of Wheelchair Professionals（以下：ISWP）のアレックス・カマドウ氏とクリティカ・カンダベル氏に当院のシーティングへの取り組みを、視察していただく機会をいただきました。自身も、回復期病院で勤務する理学療法士として日々車椅子に触れる機会が多いこともあり、今回は車椅子に着目して報告いたします。

2. グローバルセミナーを聴講して

講演では『高齢者ケアに活かす車いすシーティング』として、WHO が提唱する車椅子供与ガイドラインに沿った推奨事項の共有と、推奨事項に則って実際に特別養護老人ホームで対象の高齢者に車椅子を提供する過程が紹介されました。現状の課題を分析し、身体寸法・姿勢などの評価を経て、車椅子調整やクッションの選定を行うことで、本人が希望していたお酒が美味しく飲めるようになり、太鼓を叩けるようになって行事に参加するなど、ADL に留まらず QOL の向上も可能となっていました。当院の取り組みとして、身体寸法・姿勢評価は科内にシーティング係を設け業務として行っていますが、ADL 能力

や乗車時間向上を目的にアプローチを行うことが多く、QOL など実際に乗車する方の生活を想定しきれていないと感じました。また、講演では継続したサービス提供が推奨されるとありましたが、回復期病院の特性上、自身が退院後も継続してサービスを提供することが難しいため、よりシーティングという考えを広めて病院・在宅を問わずサービスを継承できるような環境を目指していきたいと思いました。



図 1 グローバルセミナーでの講演の様子

3. おわりに

H.C.R. の大きな特徴として、福祉機器を利用する本人や家族など当事者の参加が多いことがあげられます。出展側も来場者もすべての参加者が展示・セミナーを通し、より良い福祉を目指している姿勢を感じました。開発者・利用者が相互に関われる貴重な機会として、ぜひ今後も開催していただきたいです。ここで得た情報が将来的な福祉用具の開発や、医療・福祉の現場を発展させていくと思います。自身もより良い医療・福祉としていけるよう、来年また参加できることを心待ちにしています。

【引用】

- 1) 国際福祉機器展 ホームページより
<https://hcr.or.jp/>

花はたりハビリテーション病院

〒121-0061 東京都足立区花畑 5-12-29